

MMA Gold Report

★★ NY金相場 ★★

By Raymond A Merriman

投資日報出版(株)

コピー 対外 配布 厳禁

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3丁目12番11号 GRANDE 人形町6階 No. 580 2020年11月16日

TEL 03-3669-0278 FAX 03-3668-4444

メリマン公式サイト <http://www.toushinippou.co.jp>

重要変化日：以下の変化日は全ての市場に影響を与える。それは天体位相のクラスターの中心点前後3営業日である。時として前後5営業日に延長されることがある。従ってこの期間に相場が2週間（あるいはそれ以上）ぶりの高値、あるいは安値をつけていれば、反転する可能性が高まる。それは特にMC、ハーフPC、あるいはPCがボトムを付ける時期には反転が起こりやすい。これらの変化日は太陽/月による変化日よりも重要である。そのような多くの惑星が関連すれば、サイクルの終了とスタートに関係する可能性が強まる。下記はこれらの天体位相の中心点である。カッコ内はクラスター期間である。もしこのクラスターの期間が非常に長ければ（15日以上）、このクラスターの範囲内でよりタイトなクラスターをベースにもう一つの反転があるかもしれない。

11月9～10日 ★★★（11月16日±3営業日の時間帯にも注目：どちらかが★★★重要変化日となろう）

11月27～28日 ★★（週末なので翌週頭の時間帯にも注意） 12月8～9日 ★★

12月25～26日 ★★★（週末であると同時にホリデーシーズンでもあるという点にも注意しておく）

※ これらの期間は通常太陽/月の反転ゾーンよりも重要である。しかし、それは必ずしも正確ではない。この期間は通常MC、ハーフPC、そしてPCの天底と合致するのに対し、月の重要変化日は2.5%の相場反転と合致するだけである。

*ストップロスについては引け値を対象にしているが、これを日足ベースにするか、週足ベースにするかは個人のリスク許容量に委ねる。

【ジオコスミック面での注意点】火星が11月13～14日にかけて逆行から順行に戻った事で、先週まで影響を及ぼしていた水星逆行及び火星逆行の期間が終了した—という点に注目したい。

NY金相場（12月限）：

サポート及びレジスタンス：

先週の金相場は、引け値で週間下値支持線（先週は1,896.00～1,907.20）を下回っていたので弱気。更にこの引け値は、週間トレンドインディケーターポイント（TIP）を3週間ぶりに上回ったその翌週に下回った。従って、基調は依然として“ニュートラル”が維持された状態にある。

今週のTIPは1,904.40。ただ週の引け値でこの値を上下に大きく振れぬ限り、基調は“ニュートラル”としたい。

週間下値支持線は1,829.20～1,835.50。週の引け値がこのレンジを下回れば弱気、週の途中で下回っても、週の引け値が上回れば強気トリガー。

週間上値抵抗線は1,947.20～1,953.50。週の引け値がこのレンジを上回れば強気、週の途中で上回っても、週の引け値が下回れば弱気トリガー。

強気クロスオーバーゾーン（強気トレンドにおけるサポートゾーン）は依然として期近限月で1,824.00～1,851.30、1,847.80～1,876.60（先週一時的に破られたが引け値では上回っている）、1,487.30～1,496.30、1,363.00～1,364.00、1,316.40～1,324.00、1,296.30～1,301.00、1,236.20～1,239.40、1,132.20～1,144.30、1,070.50～1,078.10、1,014.80～1,018.10に存在。これらは下値サポートとして機能している。1,907.10～1,908.70にあったゾーンは先週の引け値で破られた。従ってこのゾーンは現在、上値抵抗として機能している。

弱気クロスオーバーゾーン（弱気トレンドにおけるレジスタンスゾーン）は現在全て破られて存在していない。従って1,489.90~1,498.30、1,404.70~1,418.20、1,316.30~1,319.60、1,118.00~1,125.70といった、過去に破られたゾーンと共に、これから下値サポートとして機能していく事になる。

サイクルズ：

先週9日に相場は1,848.00まで下落。9月24日の1,851.00（週足ベースであれば1,843.00）を割り込んだ事で、これまで強気と見ていた基本的なトレンド指標に疑念が生じている。ただ、先週の相場はここから反発しているので、まだかろうじて強気が維持されているかも知れない。ただ今週、1,848を割り込むと弱気に転換しよう。

先週の12月限は、同限月内では前週比65.5ポイント安の1,886.20で引けた。週足ベースで見ると、25週移動平均（先週末は期近つなぎ足で1,874.30）は依然として37週移動平均（同1,808.00）を上回っており、実勢相場も先週の引け値で両平均を上回っていた。従って、週足移動平均線から見た相場基調は依然として“強気”が維持されている。今後、相場が両平均を下回ると、基調は再度“ニュートラル”へと格下げされるが、その状態から25週平均が37週平均を下回ると、基調は“弱気”へと転換しよう。

一方、12月限の日足は先週も引け値ベースで15日移動平均（先週末で1,893.00）が45日移動平均（同1,906.60）を下回っており、実勢相場も引け値で両平均を下回っていた。従ってこれは、日足移動平均線から見た基調が“ニュートラル”から再度“弱気”へと格下げされた事を意味している。ここから相場が両平均を上回ると基調は“ニュートラル”に格上げされ、更にそこから15日平均が45日平均を上回ると、基調は“強気”へと格上げされよう。

プライマリーサイクル（PC）の研究：

現時点で好ましいサイクル位相：通常、PCの日柄は15~21週である。しかし、時として日柄に“歪み”が生じ、起点から22~27週程度延長してボトムをつけるケースが散見される。

3月16日の安値1,458.80（週足ベースであれば1,450.90）と、そのダブルボトムと目される同月20日の安値1,468.00（週足ベースだと1,457.50）から27週目にあたる9月24日、相場は1,851.00（週足ベースでは1,843.00）まで下落後に反発。10月12日には1,939.40まで上昇した。当レポートでは以前から“…現在の反騰相場が1,950超えを果たした場合、この（延長PCボトムの）見通しがフィットする事になるだろう”と述べており、現時点で相場はまだ1,950超えを果たしていないものの、チャートパターンは良好に見える。従って9月安値は、（完全確定ではないものの）3月安値を起点としたPCが27週に延長されてボトムをつけた公算が高い。もしそうであれば、今週はこの9月安値を起点とする新PCの8週目。これが現時点における好ましい現行PCのシナリオとなる。

また、このシナリオには別のアングルも存在する。当レポートでは以前から、上記の3月安値を起点とするPCが11週目にあたる6月5日の1,690.10（期近ベースでは1,671.70）で短縮PCボトムをつけたという見方が有効である一と考えていた。何故なら、この日は新月にして月食。更には金星逆行の中間点を含む★重要変化日（6月3~4日±3営業日）のエリア内でもあったからだ。この6月安値から9月安値までの日柄はトータル16週。従ってこの見方であれば、通常の日柄でPCボトムをつけた事に。ただ、こちらも今週が新PCの8週目である事に変わりはない。

繰り返しになるが先週9日（月曜日）、相場は1,848.00まで下落してこのPCの起点である9月安値（同じ12月限で1,851.00）を割り込んだ。通常であれば、この時点で現行PCは弱気に転換した事になる。弱気PCはボトムをつけるまで高安値切り下がりトレンドを繰り返すので、それは（通常の日柄余地で考えると）今後7~13週にわたって下げ基調が続く一という事を意味する。

ただ仮に弱気に転換した場合でも、このPC自体に“歪み”が生じ、冒頭の延長ではなく11~14週に短縮されてPCボトムをつけるケースがある。そして短縮PCボトムが出現した後は往々にして強気反転に繋がるケースが少なくない。その場合、起点から7週目に出現した9日安値が短縮第1ハーフPC（通常であれば8~11週）のボトムであったか否かがカギとなる。

もし9日安値が短縮第1ハーフPCボトムでなかった場合、通常の日柄に則って今後3週間以内にボトムをつけるべく、更なる下値を模索すると見られる。ただ短縮第1ハーフPCボトムであったとしても(通常の)弱気PCの見方であれば、そこから第2ハーフPCの天井に向けて1~3週間の反騰場面に入るが、短縮第1ハーフPCの天井である9日の高値(1,966.10)を超える事は出来ない。そのまま反落してPCボトムに向けて下げ続け、その過程で9日安値を下回る事になる。しかしここで1,966.10 超え場面が出現すると、それはもはや弱気基調ではなくなるだろう。

つまり今の所「現時点で好ましいサイクル位相」は、向こう3週間以内に(短縮や通常を問わず)ハーフPCボトムが出現する事である。

なお当レポートでは、以前からの記述も含めて先週こう述べていた“…目先の疑問点として残るのは、このPCのサブサイクル位相が所謂“コンビネーションパターン”になるかどうかという事。通常、金のPCは(他のサイクルと同じように)MC(通常5~7週)で3分割されるかハーフPC(通常8~11週)で2分割されるのが大半なのだが、時として両サブサイクルが混在する“コンビネーションパターン”になる事がある。このパターンが現行PCに当てはまるなら、相場は目下第1ハーフPCの天底を模索している可能性がある。…大きな懸念材料は★★★重要変化日の存在。次の★★★重要変化日は11月9~10日だが、オーブ(許容範囲)も入れると11月6~19日までが★★★重要変化ゾーンと考えている。そしてこのレベルの変化日はPCの天底を形成する場面と高い関連性を有している。…従って、この★★★重要変化ゾーンでハーフPCの天底が出現する可能性は否定出来ない。仮にこのゾーンでハーフPCの天井が出現した場合、相場はここから(ハーフPC)ボトムに向けて3~13営業日にわたる急落場面が出現するだろう”。前週11月5日に前日比50ポイント強の反騰を見せた相場はその翌週(2営業日後の)9日、1,966.10を記録して11月の月間高値を更新。しかし、その日の内に1,848.00まで下げたので、それは1日だけで100ポイント強(118.1ポイント)下げた計算になる。

想定シナリオが崩れた場合に考えられるPC：シナリオは複数存在する。しかし、現段階で「どれがより実現性が高いか」という判断にまで至るには時期尚早であろう。

先ず、★★★重要変化日当日である9日につけた1,966.10という高値は、第1ハーフPCの天井であると同時に、恐らく現行PCの天井であった—という見方が出来る。しかしながら、ここから相場はその日の内に118.1ポイントも下げて1,848.00を記録。この7月22日以来の安値水準は同時に(短縮)第1ハーフPCボトムであった可能性も否めない。このシナリオであれば、相場は3~13営業日の反騰場面が出現するも、新高値を更新する事はなく、そこから更なる下値を指向するべく新たな下降局面に入るだろう。

次に考えられるのは、9日の1,848.00までの下げがあくまで「異常事態」であった—という見方。その「異常」の根拠は、安値でこそ9月安値(1,851.00)を割り込んだものの引け値(1,854.40)では割り込んでいなかった点にある。引け値では9月安値を下回っていない事から、9日にハーフPCボトムはつけたものの、PC自体の基調は再度強気に復帰するかも知れない。このシナリオであれば、目先の相場は少なくともあと5週間は反騰し、その過程で9日高値(1,966.10)を上回る場面が出現するかも知れない。

なお、前回のレポートではこう述べていた“(想定シナリオが崩れた場合のシナリオは)現段階では特に存在していない。強いて懸念があるなら1点のみ。目下上昇を続ける現行PCが、起点から9週目の火曜日(11月24日)以降で高値を更新し続ける事が出来ないと弱気PCとしてみなされる可能性がある—という点であろうか。実はその可能性が長期相場サイクルの観点から浮き彫りになって来ている。何故なら、現行31.33カ月サイクルは2021年3月±5カ月の何処かでボトムが出現すると見られており、現在その時間帯に足を踏み入れているのだ。それは即ち、現行PCないし次のPCにおいて弱気相場の特性が始まって来る—という事を意味している。より具体的な例としては、史上最高値を更新出来なかつたり、(現行PCであれば)起点から9週目の火曜日までにサイクル内の高値が更新できなかつたり、あるいは1,850を割り込んだり、といった事象が挙げられる”。

確かに先週9日、相場は1,850を割り込んだ。しかし繰り返すが、引け値では割り込んでいなかった。

とはいえ、2つ目のシナリオが有効にならない限り、我々の現行PCに対する見方は弱気である。しかし、これにジオコスミック要因を重ねると3つ目のシナリオが出現する。それは9日安値を（短縮）第1ハーフPCボトムとして、現行相場は目下第2ハーフPCの天井を目指して3～13営業日の反騰局面に入っており、（天井形成後は）そこから短縮PCボトムに向けて再反落する—という見方である。仮にこのシナリオが有効なら、この短縮PCボトム形成場面は強力にして格好の買い場となるだろう。

ジオコスミックス：

繰り返しになるが、現行相場は★★★重要変化ゾーン（10月9～19日）の初日である9日に現行PC内での最高値を記録し、そこからその日の内に7月22日以来の安値水準を記録した。最初に高値が出現した事から、恐らくこれはジオコスミック要因と関連性のあるサイクルであると睨んでいる。

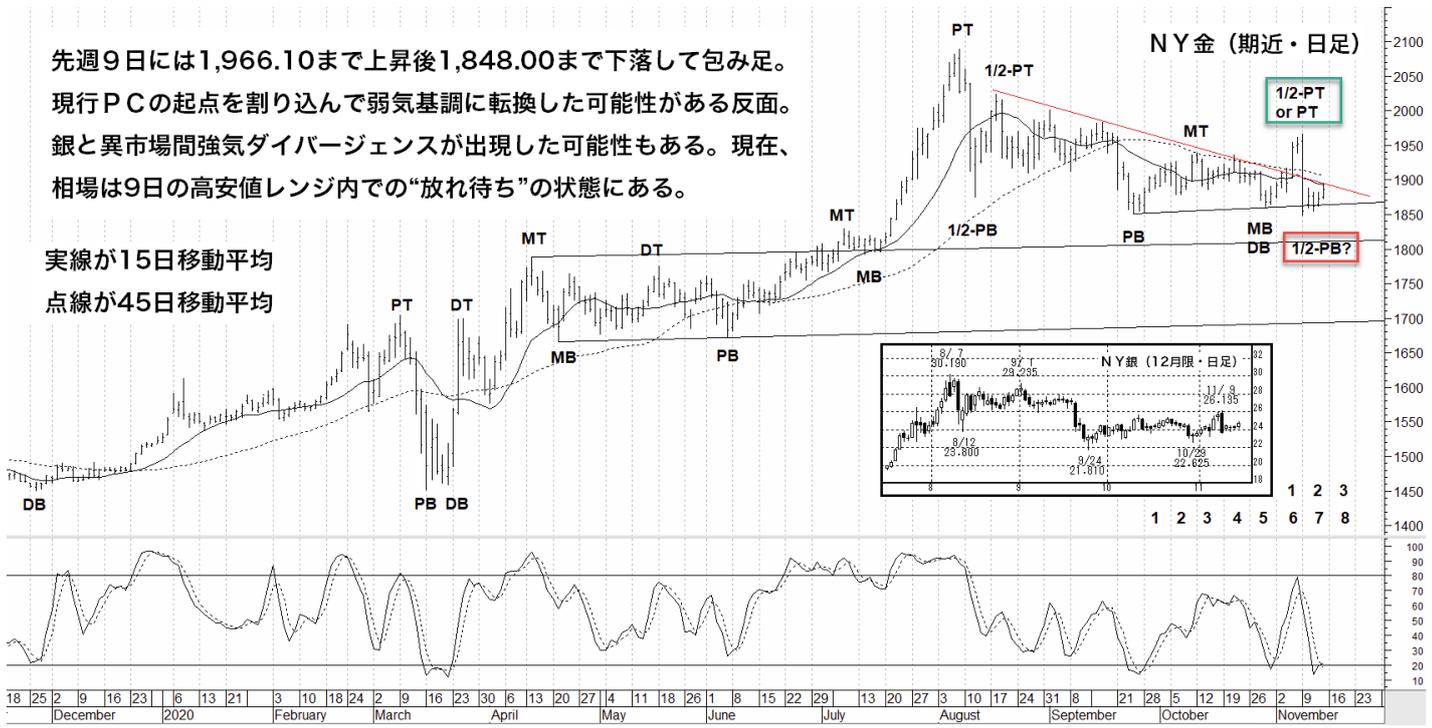
なお、金星は依然として天秤座に入居中である。これに関して、当レポートでは以前からこのように指摘していた。即ち“…金星は（米国時間で）10月27日～11月21日までの間、天秤座に入居している。この期間は、しばしば銀相場のPCボトム形成場面と合致する事が多い—という点は付記しておきたい”。このジオコスミック要因もまた、先週9日のハーフPCボトム形成場面と関連した可能性を示唆しているのかも知れない。

テクニカル及びチャートパターン：

テクニカル及びチャートパターンの観点で9日（★★★重要変化日）に記録した高安値 118.1 ポイントのレンジを見ると、それは大きな“アウトサイドデイ”と形容する事が出来る。これは、ローソク足では「包み足」「抱き線」と呼ばれているパターンである。この足が出ると大半の場合、数日間はこの高安値（1,848～1,966）のレンジ内で取引される。その上で、そこから相場が上下どちらかに放れると、放れた方向にトレンドが発生するケースが少なくない。そのため、先週9日に発生した金相場の強気基調へのダメージ修復にはいささか時間がかかるだろう。

9日高値が現行PCの天井であった場合、必然的に 1,848.00 割れの場面は不可避となる。PCボトム目標値は 1,730.00±42.70、もしくは 1,819.00±32 付近に設定されよう。また、これまでのブレイクアウトエリアであった 1,780～1,810 付近もまた下値サポートとして機能していると思われる。なお、9日安値が短縮第1ハーフPCボトムであった場合、ここから3～13営業日にわたる反騰が想定される。その際の上値目標値は 1,901.00～1,948.50 である。

一方、目先の相場が反騰する見方をサポートしているのは銀相場の存在。金は9日に7月22日以来の安値水準を記録したが、銀相場はこの日に9月24日の安値はおろか10月29日の安値をも割り込んでいない。



先週9日には1,966.10まで上昇後1,848.00まで下落して包み足。現行PCの起点を割り込んで弱気基調に転換した可能性がある反面。銀と異市場間強気ダイバージェンスが出現した可能性もある。現在、相場は9日の高安値レンジ内での“放れ待ち”の状態にある。

実線が15日移動平均
点線が45日移動平均

即ち、これは異市場間強気ダイバージェンスである。そして重要なのは、このダイバージェンスが★★★重要変化日で出現した—という事である。しかし、これまで述べて来たように金相場は9日に現行PCの起点を割り込んでいる。そのため、このPCが強気とみなされるには、金相場がここから1,966.10を突破しなければならない。突破出来なければ、このPCは弱気型となる。弱気PCであれば、その上げ幅はあくまで第1ハーフPCの天底の修正反騰に過ぎないだろう。

現時点において金相場は、状況が明確化するまでの間は極めて短期的に動く以外は取引に適していないマーケットと言える。ただ、目先の相場が向こう11~14週間にわたって下降線を辿るといふのなら、それはそれで(今から3~6週間後に)例外的ではあるが別の買い場というものが出現する可能性がある。

月齢サイクルの変化日

以下の記述は金と月齢サイクルの関係に基づいた予備的な研究結果である。初期的な研究に基づく今後2週間の月齢サイクルによる変化日を挙げてみた。日付の後に記されている数値は相場反転の潜在的な可能性を数値化したもの。120以上の数値を記録した時間帯では突出した高安が出現し、そこから3%以上の反転が見込める可能性が高いことを示す。

★は反転の強さを表し、数が多ければ(最大★★★)、より可能性が高いことを示す。その一方で☆は反転の可能性の低さを表し、☆の数が多ければ(最大☆☆☆)、反転しにくくなるか、保合い相場になりやすい。

なお、“しばしば高値傾向”もしくは“しばしば安値傾向”と書いてある時間帯は、過去のデータを検証した上で通常の2倍の頻度で高安値のどちらかが出現している。ただし、その横に★マークが付いている時間帯では、高安値のどちらかをつけた後により多くの反転場面が出現しているケースを指す。

直近の金の月齢サイクルに基づく変化日は以下の通りである：

| | 反転 | | ビッグ・レンジ・デー | |
|-----------|----------|-------|------------|-----------------------------|
| | 3%反転 | 4%反転 | | |
| 11月16日 | 95.3 | 142.6 | ★★ | 71.0 (しばしば高値傾向) |
| 11月17~19日 | 117.1 ★ | 72.8 | ☆ | 88.8 |
| 11月20日 | 115.9 ★ | 110.0 | | 122.7 ★ (しばしば安値傾向) |
| 11月23日 | 42.6 ☆☆☆ | 63.8 | ☆☆ | 62.1 ☆☆ |
| 11月24~26日 | 121.5 ★ | 94.4 | | 96.7 |
| 11月27日 | 106.3 | 19.9 | ☆☆☆ | 130.9 ★ (どちらかと言えば、しばしば高値傾向) |

ストラテジー：

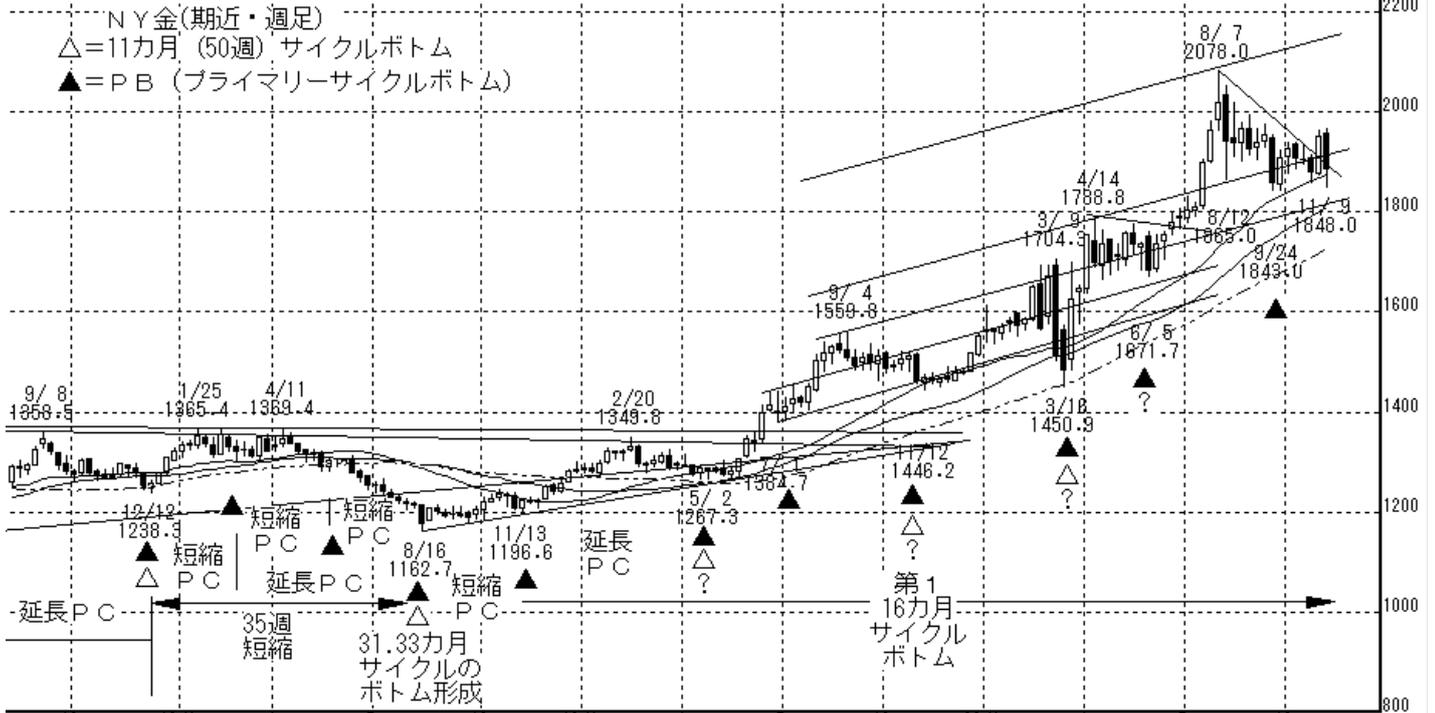
ポジショントレーダは現在ロング。既に2,000付近でポジションの3分の1を利食いし、更に8月21日の安値付近で買い直しが出来ている。今週、これらの買いポジションは、各自のリスク許容度に応じて1,848以下の引け値か1,848を割り込んだ場面のどちらかにストップロスを入れてポジションを保持しておきたい。その上で1,905±10まで上昇したところではポジションの3分の2を利食いし、1,966.10を上回った場面では上記のストップロスのどちらかを選択して再度買戻しを図りたい。

一方、積極的トレーダも現在ロング。3分の2を利食いしていたが、こちらもポジショントレーダと同じく買い直ししていた。ただ、一部のトレーダはストップアウトしていた。先週のレポートでは“ポジションを保有しているトレーダは、今週も各自のリスク許容度に応じて1,785以下か1,850以下の引け値にストップロスを入れてポジションを保持しておきたい。その上で2,020±10まで上昇したところではポジションの3分の1を利食いしておきたい。加えて、まだロングしていない極めて積極的なトレーダに対しては、今週1,910±5付近に下値サポートを見つけた場合には買い参入するのが恐らく望ましい”と述べていたので、買い参入したトレーダもいたかと思う。

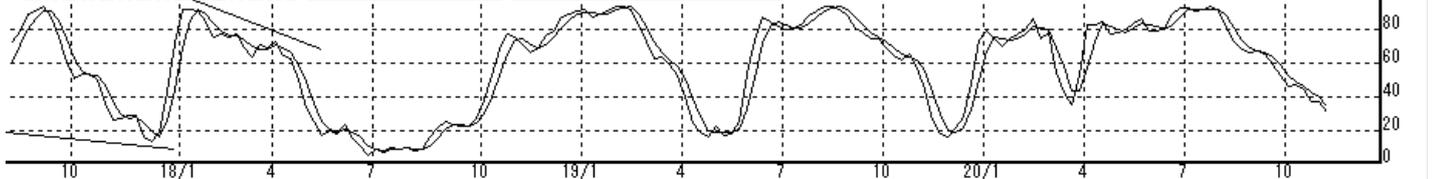
今週、これらの買いポジションは、各自のリスク許容度に応じて1,848以下の引け値か1,848を割り込んだ場面のどちらかにストップロスを入れてポジションを保持しておきたい。ストップアウトした場合は損切りドテンショートに回る。その際、ここから新規売り参入を図るトレーダも含めて1,900以上の引け値にストップロスを入れてこのショートに臨みたい。また、ストップアウトせずに1,900±12まで上昇していれば、保有する全ての買いポジションを手仕舞いし、1,950以上の引け値にストップロスを入れてドテンショートに回っても良い。ただこれは、先に相場が1,848を割り込んでいるようならキャンセルとする。

このレポートは将来の見通しの適確性、あるいは収益性を保証するものではありません。各トレーダ及びレポートの読者は自己責任で取引してください。このレポートの筆者も発行人も金融、あるいは商品市場における各参加者の決断については一切責任を負いません。先物、あるいはオプション取引は高リスクを伴うと考えられています。

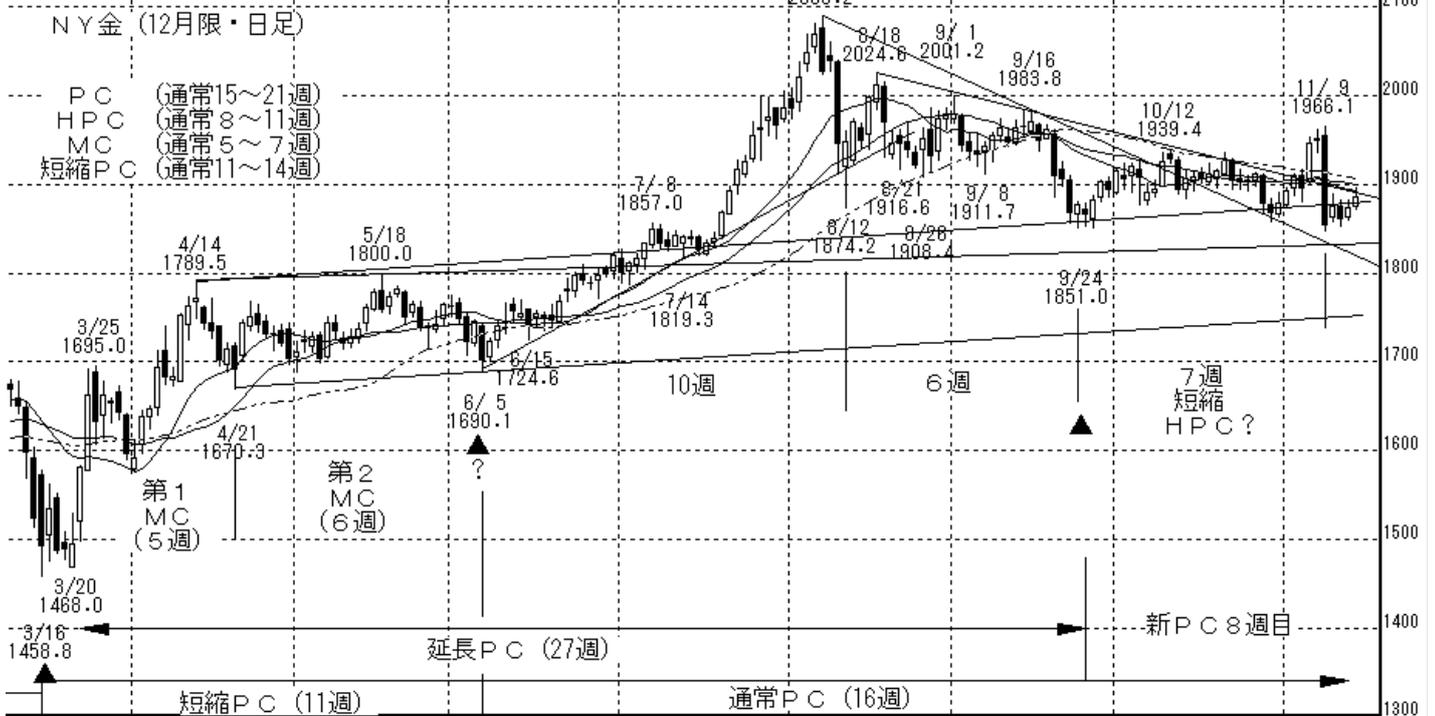
25週 終値単純 MA=1874.3 37週 終値単純 MA=1808.0 53週 終値単純 MA=1725.3



.015週 %K(終値)=18.3830 003週 %D=30.3750 003週 単純 Slow%D=34.8018



15日 終値単純 MA=1893.0 25日 終値単純 MA=1900.3 45日 終値単純 MA=1906.6 8/7 2089.2



.015日 %K(終値)=32.3455 003日 %D=21.7812 003日 単純 Slow%D=18.1391

